



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) ■ ユダヤ入門シリーズ ■  
# 15 「イスラム帝国大繁栄の理由はユダヤ人優遇政策にあり！」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



今日はイスラム帝国の中におけるユダヤ人の話を、ちょっとだけしておきたいと思います。  
皆さんは『漁夫の利』という中国の諺をご存知だと思います。あるとき、川辺の砂浜の中から蛤が出てき  
まして、口をかぱーと開けて昼寝するんです。すると、そこに鷺がやって来て、お腹をついばむんです。  
その瞬間、蛤がパーンと口を閉じまして、くちばしを挟んでピツタリと閉ざしてしまうんですね。

鷺は言います。「おい蛤、口開かないと おまえどうなる？ このままだと、地面の下にもぐれないから干  
からびてしまうぞ。困るのはおまえなんだから 口を開け！」  
蛤は、「開いたら最後、俺を食うつもりだろ。それに、俺がピツタリ口を閉ざしているの、おまえは他  
の物を食べることも出来ない。しまいには餓死するぞ。困ってんのはおまえのほうだろ。」  
蛤と鷺が両方とも一歩も譲らない。時間がどんどん経って行く。両方とも体力が消耗して行き、へとへと  
になったところで、漁師がニコニコしながらやって来て 2 つとも捕まえました。という話です。

これを『漁夫の利』と言います。2 つの勢力が戦って、戦いが長引き過ぎて体力消耗、へとへとになって  
しまったときに無傷の第 3 者が現れて、両方とも押さえ込んでしまうということです。  
人類歴史の中で、国際社会の中で、こういったことは繰り返し繰り返し起きているんですね。

7 世紀のヨーロッパ・中東圏における 2 大勢力が、東ローマ帝国とササン朝ペルシアでした。  
ササン朝ペルシアが蛤です。そして東ローマ帝国は鷺。この 2 つが 2 0 0 年にわたって戦って戦って、ど  
んどん体力消耗して行く。しかし、やめることが出来ないんです。

そのうち、トドメの恐るべき事が起こりました。ペストという伝染病の蔓延です。  
東ローマ帝国の人口が 4 割減る。ササン朝ペルシアも大ダメージを受ける。これ以上戦争続けることが出  
来ないということで、628 年に遂に仲直り。和平条約を結ぶのですが、そのときには 2 つともへとへと。

そのときに無傷の第 3 者が現れました。イスラームです。  
アラビア砂漠からイスラームの軍隊が出て来て、あっという間に 2 つの国を占領してしまうんです。  
イスラム教を始めた人物ムハンマドが亡くなったのは 632 年。  
それから 10 年も経たないうちに、あのササン朝ペルシアが全域制圧されてしまうんですね。

7 世紀末までには、東ローマ帝国は 4/5 をイスラームに取られました。一番西側はイベリア半島、今の  
ポルトガルやスペイン、海峡を渡って北アフリカ、地中海の南側全部、そして中東から東はインダス川に  
至るまで、全部イスラム帝国が出来上がったんです。すごい勢いでイスラム帝国が広がったのです。  
これは、2 つの国の抵抗する力がなくなっていたということなんですね。

さて、イスラム帝国が東西にまたがる両大国を支配下に置き制圧したとき、ビックリしたことが 2 つあ  
りました。1 つは、ユダヤ人がどこにでもいてるということ。旧ペルシア圏にもユダヤ人のコロニーがいっ  
ぱいある。東ローマ帝国のあっちこっちにも、ユダヤ人たちが共同体を作って住んでいる。

ほんとにもう、どこ行ってもユダヤ人たちがいて、そしてネットワークを持っている。これは非常に驚くべきことだったんですね。

もう 1 つのビックリしたことは、東ローマ帝国の文明は、特に砂漠の民にとってキラキラ光って見えたんですね。だって、アラビア半島でずっとどんなものを見て来たかという、砂漠とラクダとナツメヤシくらいですよ。ヨーロッパの豪華絢爛な文明は見たことがなかった。建物一つ取ってみても、実に重厚なものがそびえ立っている。

東ローマ帝国の文明のルーツはギリシア文明です。新しい支配者であるイスラームのカリフたちは、“ギリシア文明についてぜひ学びたい。自分たちも修得し、理解してものにしたい” と願うのですが、ギリシア文明を伝えるテキスト・古典の写本が、東ローマ帝国中探してもどこにもなかった。

なぜなかったのかというと、ローマがキリスト教を国教にしたときから、“ギリシア文明なんて異教の文明。こんなもんは価値がない！” というので、ローマはそれによって勃興したにもかかわらず、ギリシア文明を教えるアカデミアを次々潰して行ったんです。“こんなものは腐った文明でダメなものだ” と排除してしまったために、ローマ帝国の色んな所にギリシア文明の古典が散逸してしまって見当たらない。どこにあるか分からない。

さて、東ローマ帝国からササン朝ペルシアまでの広ーい領域を押さえたイスラム帝国/アラブのカリフたちは、その中にいたユダヤ人たちを非常に優遇したんです。これは思いがけないことでしたが優遇した。イスラムの信仰をユダヤ人たちに無理やり強制することはなかったんです。なぜ優遇したのか、2 つ理由がありました。

1 つは、ユダヤ教徒やキリスト教徒たちは一応聖典の民だから、彼らが税金さえ払ってくれたら、その信仰の自由を認める。すなわち、イスラム教への改宗を強要しないという方針を取りました。それで、ユダヤ教徒やキリスト教徒から税金をガッポリ取ったわけですが、イスラム教徒からは税金取らないんです。

するとどういふことになりますか？ イスラム帝国の住民全員がイスラム教徒になったら、誰も税金を納めないの、税金を考えると、一定数イスラム教徒にならないほうが助かるんですね。ユダヤ人たちは自分の信仰を捨てる気持ちはさらさらありませんから、イスラム教に改宗することはありません。それは、イスラム支配体制側から見ても好都合だったんです。何しろ、彼らからガッポリ取ることが出来たからです。

イスラームのカリフたちがユダヤ人を優遇したもう 1 つの理由は、イスラームのリーダーたちが のどから手が出るほど欲しがっていたギリシア文明の古典の写本が、なんとなんと、ユダヤ人の図書館に秘蔵されていたのです。彼らはそれらの古典写本を大切に保管していた。カリフたちは “それをアラビア語に翻訳してほしい。そして翻訳されたものを自分たちが学びたい” と考えたのです。

では、写本を借り受けるとして、誰に翻訳を頼んだらいいでしょうか？ もちろん、時代の国際人であったユダヤ人ですよ。ユダヤ人には、ヘブライ語・アラビア語・ギリシア語・ラテン語・シリア語・ペルシア語、これら 6 つの言葉を等しく使いこなすことが出来る語学の使い手がたくさんいたんです。何しろ、国境を越えてユダヤ貿易商人で往来しているので、言語が出来るのは当たり前でした。ユダヤ人の言語学者や通訳の能力に長けているユダヤ人を通して、ギリシアの古典をアラビア語に翻訳してもらったんです。

ギリシアの古典とはアルキメデス・ユークリッド・プラトン・アリストテレス・ヒポクラテス、そういう古典中の古典ありますよね。それを彼らはアラビア語で読めるようになったんですね。

これらを翻訳したユダヤ人たちは、単に翻訳するだけではなく、化学・天文学・医学・建築学・数学など様々な学問について、誰よりも先にそれらのテキストを読むことが出来る。それで、ユダヤ人の中で、このジャンルの天才的学者・偉大な業績を残す傑出した学者たちがいっぱい出て来たんです。

というのは、このジャンルで第一人者になることによって、自分がユダヤ人であることが全然ハンデではなく、民族の出自や宗教によって差別されることなく、実力一つで評価されることが出来るからです。そして、ユダヤ人科学者たちが大活躍したこの時代、イスラームの中からも学者がどんどん出て来るようになり、イスラム帝国はその時代の文明において、最先端の科学立国になって行きました。

化学用語の中にはアラビア語由来のものがとても多いんです。例えば、アルケミー（錬金術）・アルコール・アルカリ・アルゴリズム・アルゲブラ。最初の“アル”はアラビア語の定冠詞。英語の“the”ですね。

アルケミー（錬金術）の“ケミー”から、ケミカル（化学）という言葉が出ます。

アルカリはアラビア語で“植物の胚”という意味があります。昔は植物の胚からアルカリ成分を抽出したのですが、“カリ”からカリウムという言葉が出ました。

錬金術で、鉛や錫（すず）などの卑金属を調合したり化学反応させたりして、金や銀などの貴金属に変えようと試みます。それはもちろん成功しないけど、それを目指して色々試行錯誤していく過程で、様々な化学上の発展を見つけるようになって行くんですね。

発展したのは化学のジャンルだけではなくありません。医学のジャンルでも目覚ましい進歩を遂げたんです。世界初の病院は706年バグダッドに出来ました。10世紀には医学大学がイスラム帝国に出来ています。そして、人類史上初の麻酔を使った手術や癌の摘出手術までもやってるんです。また、伝染病を発見したり、ラクダを使って救急医療システムを作ったりもしてるんですね。

今年1月6日、アメリカ国会議事堂突入の事件がありましたね。とっても残念な事件です。あれはトランプ大統領が先導したのではないですよ。だって、その前に、1万人の州兵を国会議事堂の前に派遣するように、何度も何度も働きかけていたのがトランプ大統領なんです。それをワシントンDCの市長が拒んでいるんですね。それは置いといて。

国会議事堂はすごく重厚な建物です。何建築だと思います？ イスラム建築ですよ。

つまり、イスラムの建築・天文学・医学・化学技術はその当時の最先端なんです。

今イスラムというと、何となく好戦的・時代遅れ・理屈が通らない・理にかなわない・文明と正反対みたいなイメージを持っている方が多いのですが、かつてヨーロッパが暗黒時代のとき、世界の最先端を突っ走っていたのがイスラム帝国なんです。

なぜ、こんなにイスラム帝国が繁栄したのでしょうか？ ズバリ、ユダヤ人を厚遇したからです。

それ以前のローマ帝国やササン朝ペルシアでは、やはりユダヤ人たちは肩身が狭かった。

少数派ということもあるし、自分たちの信仰に色々介入があったりしたんです。

しかしイスラム帝国では、“税金さえ払ってくれたら勝手にやってくれていいから”と、信仰の問題に口出しされることがなかったんですよ。

そしてユダヤ人たちは、能力を発揮することによって、非常に高いポジションに次々抜擢されていったんです。イスラームでないにもかかわらず、非常に高い地位に就くことが出来た人たち、ユダヤ人ですよ。

創世記 12 章 3 節、神がアブラハム（ユダヤ人の先祖）に語った言葉です。  
わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。  
地のすべての民族は、あなたによって祝福される。

アブラハム契約と言われていますが、これは人類歴史の謎を解く大原則です。  
『ユダヤ民族を祝福する者は祝福され、呪う者は呪われる。』

ところで現在、イスラム原理主義という考え方に立った国家や組織がいくつかあります。  
国ではイランが代表的ですね。組織ではアルカイダ・イスラム国・レバノンで活動しているヒズボラ・ガ  
ザ地区を根城にしているハマス。これらはみな、イスラム原理主義国家・イスラム原理主義政党・イスラ  
ム原理主義勢力と言われてています。

イスラム原理主義とはどんな考え方か。ひと言で言うと、なぜ今 イスラムの国々は世界の中でトップで  
ないのか。はっきり言って、世界のトップはアメリカですよ。2 番手は中国でしょう。イスラムではない。  
イスラムを見ると、石油という重要資源を持ち、地政学的にも非常に有利な所を持っている。  
にもかかわらず、ずっと欧米の後塵を拝している。

最も尊い信仰であるイスラム教を信じ、石油が与えられ、素晴らしいものを持っているはずのイスラーム  
の人々が、なぜ欧米の下のようなポジションしか取れないのか？ 世界制覇できていないのか？  
それは、イスラームの法律を厳格に実行していないからだ！ かつてのイスラームの黄金時代を  
その法律は全部イスラム法に基づいていたのだ。ところが今のイスラームの国々は、例えば、ユダヤ人の  
国イスラエルがパレスチナを支配しているのに、指をくわえて黙って見て何もしない。  
だから、アラーの神はイスラム教徒を祝福することが出来ないんだ。だから、イスラエルを叩け！

歴史的な過去の事例を見ると、この考え方は間違いです。イスラームが帝国として最も繁栄していた時代  
は、ユダヤ人を迫害していたのではなく、ユダヤ人を祝福していた時代なんですね。  
彼らは歴史上ありもしなかったことを、こうなのだと思定して言い募っているけれど、そんな事実は歴史  
上ありません。

ユダヤ人（イスラエル）を祝福する者は祝福されるという原則は今でも生きています。

私はこの点で、日本のことで少し心配していることがあるんです。

今回のアメリカ大統領選挙を通して、ディープステート（DS）という言葉が、ずいぶん人口に膾炙（か  
いしゃ）するようになりましたね。色んな人が“ディープステートが…”“ディープステートが…”

トランプ大統領自身も言われました。「ディープステートがいるんだ。」

ディープステートという言葉は、それを使う方によって、その内容が違ふんです。

日本の識者の中に、「ディープステートは実はユダヤの地下政府である/ユダヤの国際金融資本である。」  
そういう観点で、「この世界を悪化・破壊させるためにユダヤ人が暗躍しているのだ」と言う人がいらっ  
しゃるんですね。

私はその考えを断固として拒否しております。拒否するだけでなく、この考え方は非常に危険だと考えて  
いますし、これからこのシリーズでは、折に触れて論破して行きたいと考えています。

なぜこれが危険なのかというと、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。

これは歴史上もう立証されています。しかし、このユダヤ陰謀論に立って世界解釈をすることで、日本人  
の心に反ユダヤ主義が芽生えるようになるからです。

ユダヤ人を憎むようになる。ユダヤ人を危険視する。ユダヤ人に憎しみを覚えるような種蒔きをしているのではないかと考えています。この考え方は日本を駄目にする考え方です。

ユダヤ人の中にも一部そういう人たちがいるでしょうが、ユダヤ人という十把一絡げ(じっぱひとからげ)で結び付けて、そして空想で話を作って行くことに対して、私は断固反対しています。このシリーズでこれから一つひとつ論駁して行きますので、よろしければまたお付き合いください。

わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての民族は、あなたによって、ユダヤ人によって、ユダヤ人から出て来るある特定の子孫によって、すなわちメシアによって、祝福される。これは、聖書が最初から語り続けているメインテーマなんですね。

このユダヤ人から出て来るメシア/救い主は、日本人にとってもメシアです。そして、あなた個人にとってもメシアとなられる方、イエス・キリストという方なんですね。

その方のところに行くまで、まだまだゴールは遙かなんですねえ。ユダヤ民族の歴史の話、長いんですよ～。長いんですけどね、知っておくことによって、聖書のアウトラインがすごく分かりやすくなるんじゃないかなと考えております。

ということで、またお付き合いしてくださったらとっても光栄です。このチャンネルで、またお目に掛かりましょう。それまで皆さん、ごきげんよう！さよなら!!

\* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』です。